

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分
 【発行日】平成20年5月8日(2008.5.8)

【公開番号】特開2006-268564(P2006-268564A)
 【公開日】平成18年10月5日(2006.10.5)
 【年通号数】公開・登録公報2006-039
 【出願番号】特願2005-86979(P2005-86979)
 【国際特許分類】

G 0 6 F 3/14 (2006.01)

G 0 6 F 17/30 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 3/14 3 1 0 A

G 0 6 F 17/30 2 2 0 Z

【手続補正書】
 【提出日】平成20年3月24日(2008.3.24)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 1 3 3
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 1 3 3】

それから、色相幅対数値を各カテゴリ項目値の種類の数に応じて均等に分割して自然対数による均等分割対数値を算出する。ここで、均等分割対数値は、 $\frac{1}{n} \log(\text{色相幅値}) \div (\text{カテゴリ項目値の種類の数} - 1)$ によって算出される。したがって、カテゴリ項目値の種類数が 10 個の場合には、均等分割対数値は、 $5.48063892334199 \div (10-1)=0.608959880371332$ となる。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 1 3 7
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 1 3 7】

次に、対数関数の逆関数である指数関数を用いた指数変換処理により、各カテゴリ項目値別対数値をそれぞれ指数変換して各カテゴリ項目値に相当するカテゴリ項目値別指数変換値を各々算出する。各カテゴリ項目値別指数変換値の算出式は、 $E \times p(\text{各カテゴリ項目値に相当する自然対数値})$ となる。尚、 $E \times p$ は、指数関数 ($\frac{1}{\log}$ 関数の逆関数) である。